

市の借金は、市民一人当たり 45万6千134円

市は、公共施設の建設や道路の舗装など、将来にわたって使用する施設などの整備を行うときに限り、国や金融機関から資金を借り入れることができ、これら市の借金を市債といえます。

平成28年3月31日現在の市債残高は226億3千792万円、市民一人当たり45万6千134円となっています。

市債残高の状況

区 分		残高
一般会計		225億205万円
特別会計	学校給食事業 特別会計	1,152万円
	簡易水道事業 特別会計	1億2,436万円
合 計		226億3,792万円

市有財産の状況

市は、市民サービスの提供に活用するために土地や建物を所

有しているほか、特定の目的に使用するためや万が一のときの預金として、基金を保有するなどしています。

市有財産の状況

区 分		金額または面積
土 地		686.4万平方メートル
建 物		27.8万平方メートル
基金など	現 金	34億3,443万円
	土 地	11.1万平方メートル
出資金・ 債権など	出資金など	1億690万円
	債 権	5億1,120万円

一時借入金金の状況

市は、一時的な資金不足により、市民への給付や納入業者への支払いに支障を生じさせないよう、金融機関から資金を借り入れます。こうした市の一時的な借り入れを一時借入金といいます。

平成28年3月31日現在の借入金残高は、一般会計で6億円となっています。

市の財政動向と今後の運営

○歳入歳出の動向

市の収入のうち、市税は市民の皆さんから納入していただく安定的な収入で、収入に占める市税の割合が高いことが望ましいとされています。

しかし、登別市は市税の割合が他の自治体に比べて低く、逆に国から交付される地方交付税の占める割合が高くなっています。特に近年では、歳入歳出の総額が増加傾向にある中で、市税は横ばいで推移しており、歳入に占める市税の割合は減少傾向にあります。

また、支出のうち、公債費や

○基金の動向

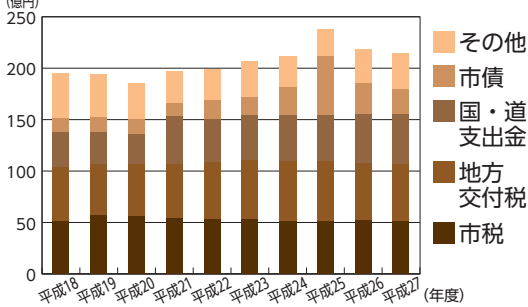
市は、特定の事業に使用したり、財源の調整を図るため、基金（預金）を積み立てています。このうち、万が一のときの備えとして基金（財源調整用基金）の残高は、近年はほぼ横ばいで推移していますが、平成27年度は、前年度比で約1・5億円増加しました。

○今後の運営

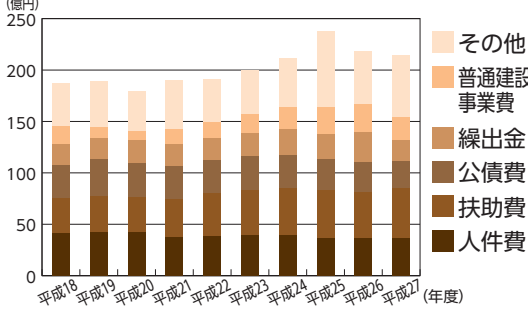
収入に占める市税の割合が低い登別市は、地方交付税が減額となる場合などに備えて、基金（預金）を一定程度保有しておく必要があります。

歳入の面では、国の動向などに左右されない安定的な収入や万が一のときに自由に使える基金（預金）を確保することに努め、歳出の面では、事務事業評価や予算編成などを通じて、事業の必要性、効率性について不審の見直しを図るなど、計画的に事業を実施し、将来にわたって安定的で健全な財政運営を行っていきます。

歳入の推移



歳出の推移



財源調整用基金残高の推移

